

2015年12月27日 礼拝メッセージ

聖書：第一ヨハネ4章1～6節

説教：神からの霊を知りなさい

1 さまざまな霊

1) 「神は霊です」(ヨハネ4章24節)

今日の箇所には、霊の存在のことが書かれています。霊ということばを聞くと、なにか気味が悪いものとか、幽霊を思い出す方もいるでしょう。霊ということばからあまりよい印象は受けません。

けれども聖書には、「神は霊です」と書いてあります。私たちは霊という存在である神を信じております。この方は人の目には見えないけれど、永遠の昔から永遠の未来に至るまで存在され、私たちのことを心配し、励まし、助けてくださいます。私たちと同じように人格を持っておられます。霊と言っても、このようにすばらしい方がおられます。

2) 反キリストの霊

しかしそれとは違う霊的な存在もあります。例えば、イエスが悪霊を追い出す場面が聖書に出て来ます。そこでは、悪霊もことばを語ります。イエスの姿を見ておびえます。彼らもやはり人格を持った存在です。

このように、この世にはよい霊と悪い霊のこの二つの種類の霊がいるとわかります。よい霊と悪い霊とがあるのですから、なんでもよいはずはありません。見極める必要があります。

正月になれば、多くの人が北海道神宮に参拝に行きます。神社も霊的な存在を祭ってある場所です。ふだんは、霊と聞いて怖いとか、気持ち悪いと言っている人たちが、なぜか神社にいる霊だけはありがたいと考えて拝み

ます。折角お賽銭を払って、自分の人生についてお願いをするので、どうせ拝むなら悪い霊ではなく、よい霊に向かって拝むべきでしょう。では、いったいどのようにしてこの二つを見極めるのか。次にそのことを見ます。

3) 見極める

2, 3節です。「人なって来てくださったイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれがくることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。」

何か複雑な方法でもあるのかと思ったら、見極めの基準は非常に簡単です。よい霊とは「人となって来てくださったイエス・キリストを告白する霊で、それは神から出たものである。いっぽう、悪い霊とは「イエスを告白しない霊」であり、それらは神から出たものではなく、反キリストの霊である。これがすべてです。

4) 彼らに勝ったのです

そしてこの反キリストの霊は、すでに世に入り込んでいていろいろな活動をしていると言うのです。「いつ、そんなことがあったのか」と怪訝に思う方もいらっしゃるでしょう。実は、みなさんは意識していない、気がつかないうちにそのような戦いに巻き込ま

れていたのかもしれないのです。こんなことを言うと、急に不安になったり、恐ろしくなった方もいるでしょう。

一年の最後を怖い話で締めくくるのは本意ではありませんから、あらかじめ結論から申し上げておきます。ご安心下さい。どんなに悪い霊がこの世にうごめいていたとしても、私たちは何も恐れることはありません。4節にこうあります。「子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。」

どんなに恐ろしい霊が出て来たとしても、私たちは何も恐れる必要はない。戦いをする前から勝負は決まっています、もうすでに勝っているからです。どうして勝敗がすでに決まっているのか。「あなたがたのうちにおられる方」、つまり私たちの主であるイエス・キリストが、悪い霊に勝ったので、神の子とされた私たちは、勝負をする前から勝ちが決まっています。ですからどんな相手が出て来ても、安心してよい。まずそのことを覚えておいて下さい。

一安心したところで、皆さんの中に次の疑問が湧いてきたはずですよ。いったい悪い霊と言われるものは、どんな姿で私たちの前に現れてくるのですか。どんな方法で悪いことをするのか。

2 ある事例

勝つことは最初からわかっているのですが、それでも敵である相手のことを知っておくべきででしょう。あらかじめ知っておけば、心構えができます。

悪い霊、偽りの霊のことで、私が経験した

ことがあります。そのお話しします。この話は興味本位でするものではありません。みなさんにとって、霊の戦いとはどのようなものなのかを知っていただき、備えていただくために、具体的な名前は控えますが、少し詳しく話します。

ある姉妹の葬儀がキリスト教式で執り行われました。その葬儀に四十代くらいの女性の方が出席されました。私はそのとき初めてお会いしましたので、どのような方であるのかまったく知りませんでした。でも、一目見てこれはただ者ではないと感じました。私と妻は後になってこの女性のことを「女占い師」と呼ぶことになりました。

私がこの女占い師を見たとき、まず最初に考えたのは、この人を教会に入れていいかどうかでありました。それほどの危険を感じました。いっそのこと、「入らないでください」と言おうかと思ったほどです。

こんなことを言うと、「教会はだれにでも開かれているはずだから、牧師は差別していないのか」と反論する人もいるかもしれません。けれどもイエスは、羊のなりをして入り込んでくる狼がいるとも警告しています。狼は羊を食い荒らしますから、ほんとうは入れない方がよい。けれども、その方は入りました。そこで私は、この人が教会の中で何を語るのか、何をするのか、注意をしていました。そうやって、とにかく葬儀は無事に終わりました。

あとで家族の方に、「あの女性はどういう人ですか」とお聞きしました。すると、「あの方は、ずっと以前から家族ぐるみのおつきあいをしていて、なにか悩み事があると相談していた人なのです。お母さんの形見である宝石も預けているんですよ」と教えて下さい

ました。それを聞き、心配にはなったのですが、その方があまりにも信頼している様子なので、何も言いませんでした。ところが、およそ一年経ったとき、すべてのことが明らかになりました。あの女占い師が、預けていた宝石や財産をすべて持ち逃げしてしまったというのです。まるで映画かドラマのような話ですが、実際にこのような事件が身近に起きました。

あの女占い師が醸し出していた雰囲気は、まさに悪い霊そのものでした。邪悪なものを感じました。特別ななにかが目に見えるわけではありません。けれども霊的な部分で感じました。その方と交わしたことばはごく普通のあいさつ程度でしたが、見えないところで激しい戦いをしていました。何もしていないはずなのに、ものすごい疲れを覚えました。極端なケースであったかもしれませんが、これが霊的な戦いと呼ばれるものです。

3 真理の霊と偽りの霊

1) 「勝つ」とはなにか

さて聖書に戻ります。先ほど、私たちクリスチャンはこれらの悪い霊にすでに勝っていると言いました。では、今の話をどう考えたらよいのでしょうか。ある姉妹は信仰をもって亡くなり、その後で偽りの霊に財産をだまし取られました。悪い霊に負けたのでしょうか。負けたのは、姉妹の信仰が弱かったということでしょうか。そんなはずはありません。聖書のみことばに例外はありません。信仰が強いとか弱いとかは関係がない。どんなに弱々しい告白であっても、あなたこそ救い主キリストですと告白する者は、もうそれだけで神から出た者であり、悪い霊に勝っていると言われるのです。

では今の話をどう考えたらよいのか。問題は、何をもって勝ったとか負けたと言うのかです。お金をだまし取られたから負けたということですか。では、お金は私たちを救う力があるのですか。もし救う力があるというのなら、確かに負けということになるでしょう。世の中では、お金には救う力があるかのような話がテレビや新聞、雑誌、そしてネットを通じて盛んに宣伝されています。多くの人がこの話を信じています。でも、結局お金で手に入れたものは消えてなくなります。朽ちていきます。腐っていきます。壊れていきます。お金は、私たちを救うことなどできません。救う力のないものは、すべて偽りの霊なのです。なので、お金をだまし取られたとしても負けではないことになります。

2) 神からの霊を知る

ではいったい何が私たちを救うのか。真理の霊しかありません。神からの霊こそが私たちを救うことができます。だから真理の霊と偽りの霊を見極めていく必要があると言っているのです。

悪い霊は私たちに戦いを挑み、だまそうとするでしょう。もしかして悪い霊は私たちのいのちを奪うこともあるかもしれない。けれども、恐れる必要はない。神が与えてくださった救いの約束を、悪い霊は絶対に奪うことができないからです。もうそこで勝負は決まっている。私たちはすでに勝っています。

パウロは言っています。「死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。」(ローマ 8

章 38, 39 節) いのちを捨てるほどに愛して下さった神の愛から私たちを引き離すことはだれもできない。だから、私たちはすでに勝っていると言われているのです。

それでも不安でしょうか。私は、悪い霊にすっかりだまされるのではないか。どうしたら悪い霊を見極めることができるのか。そう思うでしょうか。

質屋の主人は、お客さんがもってきた品物が本物か偽物かを見極める目を持っていないければなりません。どうやって見る目を養うのか。常に本物に触れる。常に本物を見る。そうやって鑑定力を養います。銀行員もいつも本物のお札に触れているので、偽札に触れたとき、すぐにこれは偽物だとわかるのだそうです。

信仰もこれと同じです。教会の交わりの中で私たちは自然に、本物と偽物を見極める力が養われてきています。自分の目だけではなく、兄弟姉妹の目もいっしょに見てくれます。あまり意識したことはなかったかもしれませんが、教会の主であるイエス・キリストは、このようにして私たちを守ってくださっていたのです。

この一年も、主の恵みの中で歩むことができたことを感謝したいと思います。